



2008 年男・年女18人が語る 今年の抱負・目標 村の子年生まは268人

新しい年が幕を開けました。今年の干支は子(ネズミ)。十二支の1番手です。村内の子年生まは268人。そのうち18人に今年の抱負や目標を聞きました。この1年が皆さんのがんばりや思いのよう、すばらしい年でありますようお祈りします。

(注)2人以上写っている写真の名前は左の人からです。



加差野常吉さん
(緑区・83歳)



茂石祐香さん、大橋みなみさん、
山田彩華さん(3人とも旭日区・11歳)



太田 貞治さん
(太田名部・59歳)



駒木李音君、嘉村佳那恵さん
(2人とも黒崎・11歳)



熊谷アサノさん
(上区・95歳)



宮本輝弥君、中花 成君
(白井・11歳)



佐々木 望さん
(中央区・35歳)



下川静子さん(鳥居・47歳)
太田明子さん(堀内・47歳)



上向 實さん
(堀内・71歳)

生まれた年(年齢)	人数
明治45年(95歳)	6
大正1年	
大正13年(83歳)	24
昭和11年(71歳)	43
昭和23年(59歳)	62
昭和35年(47歳)	47
昭和47年(35歳)	38
昭和59年(23歳)	23
平成8年(11歳)	25
合計	268

(平成19年12月27日現在)



金子 太一さん
(黒崎・23歳)



日野澤司君、上方将太君、森田周君
(3人とも上区・11歳)

新年あけましておめでとうございます。平成二十年の新春を迎える村民の皆さんに心からお喜び申し上げます。

さて、昨年の国内を顧みますと、食肉や野菜の産地偽装、賞味期限の改ざんなど、国民の信頼を裏切る出来事が相次ぎ、さらには原油高によるガソリンの値上げなど、生活に一層厳しさが増した1年だったように思います。

村内をみると、農林業は夏場の長引く異常気象により稻作は作況指数93の不良となりました。野菜類も育成障害が多く見られ、中でも本村の主力作物である雨よけホウレンソウは、11月末現在で数量が前年対比96・7%となり、トウモロコシは31・6%、馬鈴薯は同比57・4%といずれも安価で推移しています。

また春菊、キュウリ、枝豆は前年

品質、生産量、生産額とも久慈管内で上位に位置しています。

全国乾椎茸品評会では、鳥居の正路正敏さんが農林水産大臣賞に、また全農乾椎茸品評会では、同地区的中居斎さんも林野庁長官賞に輝き、今後も規模の拡大、生産組織や後継者の育成に一丸となつて取り組む所存です。

一方、漁業関係では養殖ワカメの生産額が2億1千万円、養殖コンブは1億6千万となり、前年に比べワカメが4千万円の増、コンブはほぼ同額となっています。ウニは販売額千6百万円で前年対比で約2倍ほどですが、昨年の不漁を考えるとほぼ例年並み、アワビは販売単価が当たり約6千円と大幅に値を下げています。

教育面では小・中学生がスポーツや各種作文コンクールなどで目覚ましい活躍を遂げました。

中でも普代小6年の道下明賢君と佐々木愛莉香さんは、県体育協会などが進める世界で活躍するスポーツ選手輩出を目指す「スーパー・キッズ」の78人の中に選ばれ、大変うれしく思っています。普代中学校の躍進も目覚ましく、スポーツや各種作文のコンクールなどで地区優勝や全国入選を多数果たしました。

そのほかの事業としては、6回目を迎えた「ふだいまるごと海産まつり」は、天候にも恵まれ村内外から5千人以上が訪れるなど盛況に終り、岩手日報創刊130周年の記念事業「日報130コンサート」も「ふるさと」をテーマに感動のステージを繰り広げました。

平成の大合併から約2年。当面自立を選択した村は、行財政改革を進め、その目標も達成されています。これも村民の皆さまのご理解とご協力と感謝しています。これから新年度の予算編成、小学校の再編統合、行財政改革のさらなる推進など課題は山積みです。しかしこちらの課題を克服したとき、必ずや明るい未来が訪れると言えます。

また旧暦の10月20日の伝統行事として知られる定置網の「二十日講」が新聞紙上で大きく特集されるなど、さまざまな分野で県内に村の文化を発信することができたと感じています。



普代村長 ふかわたり 深渡 宏

希望の古里づくりに 皆さんと飛躍を誓う

また旧暦の10月20日の伝統行事として知られる定置網の「二十日講」が新聞紙上で大きく特集されるなど、さまざまな分野で県内に村の文化を発信することができたと感じています。

これまで築き上げたこの普代村をさらに希望の村とするために、村民の皆さんと共に「協働」の精神で、着実に躍進する年とすることを誓い合いました。